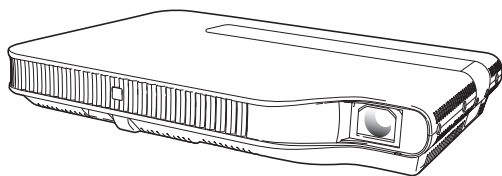
DATA PROJECTOR
XJ-A130/XJ-A135*
XJ-A140/XJ-A145*
XJ-A230/XJ-A235*
XJ-A240/XJ-A245*

* USB端子付きモデル
* USB port models
* Modelle mit USB-Port
* Modèles à port USB
* Modelos con puerto USB
* Modelli con porta USB
* Modeller med USB-port
* 配備USB端口的型號
* USB 포트 모델

取扱説明書（基本編）
本書はお読みになった後も大切に保管してください。

User’s Guide (Basic Operations)
Be sure to keep all user documentation handy for future reference.

Bedienungsanleitung (Grundbedienung)
Bitte bewahren Sie die gesamte Benutzerdokumentation für späteres Nachschlagen auf.

Mode d’emploi (Opérations de base)
Conservez la documentation à portée de main pour toute référence future.

Guía del usuario (Operaciones básicas)
Asegúrese de tener a mano toda la documentación del usuario para futuras consultas.

Guida dell’utilizzatore (Operazioni di base)
Conservare l’intera documentazione dell’utente a portata di mano per riferimenti futuri.

Instruktionshäfte (Grundläggande anvisningar)
Förvara all användardokumentation nära till hands för framtida referens.

用戶說明書（基本操作）
請務必將所有用戶文件妥善保管以便日後需要時查閱。

사용설명서 (기본 조작)
만약을 대비하여 사용설명서 등은 소중히 보관해 주십시오.

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

この装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

取扱説明書
（基本編）

日本語

日本語

● 本機をお使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（J-2ページ）と「使用上のご注意」（J-7ページ）をお読みください。
● 本書は、本機の設置方法、パソコンやビデオ機器との接続、基本的な操作について説明しています。より詳しい説明は、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）をご覧ください。

目 次

安全上のご注意

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。
（左の例は感電注意）

⃠記号は「してはいけないこと」を意味しています。
（左の例は分解禁止）

●記号は「しなければならないこと」を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

本機の使用上のご注意

⚠ 警告

●煙、臭い、発熱などの異常について

煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

●故障したまま使用しない

本書に従って正しく使用しても、画面が異常などの故障状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

● 電源コードについて

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 電源は、指定された電源電圧（日本国内では交流100V）のコンセントを使用する
- 1つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐタコ足配線をしない

電源コードは使い方を誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 重い物をのせたり、加熱しない
- 設置時にラックや壁などにはさみ込んだり、コードの上を敷物などで覆わない
- 加工したり、キズつけたり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない

濡れた手で電源コードや電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。

● 海外では使用しない

本機は日本国内専用機です。海外では使用できません。

● 水、異物はさける

本機に水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

本機の上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

水、液体、異物（金属片など）が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

● 分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。内部には高圧部分が数多くあり、感電・やけど・けがをする原因となります。

内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

● 落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

● 火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

● 点灯中にレンズや吸気口／排気口をのぞかない

点灯中にレンズや吸気口／排気口をのぞきこまないでください。強い光が目に入り視力障害などの原因となります。

● 吸気口、排気口をふさがない

吸気口、排気口をふさぐと本機の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となります。また、使用中に触れるとやけどの原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 壁から30cm以上離して設置する
- 風通しの悪い場所に押し込まない
- 布などを掛けない
- じゅうたん・布団・タオルなどの柔らかい物の上や、座部の柔らかいイスなどに置いて使用しない（堅い平面に置いて使用してください）
- たてて使用しない

● プロジェクターのキャビネットを開けない

感電の恐れがあります。

● お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

感電の原因となります。

● 排気口部について

投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください。また排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください。変形や変色する原因となります。

● 本機の電源を入れる前に、必ずレンズカバーを取り外す

投映中はレンズカバーを取り付けたままにしないでください。

● 次の場所での使用はしない

火災・感電の原因となります。

- 振動の多い場所
- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光があたる場所
- その他、高温や低温の所（本機は5℃～35℃の環境内でご使用ください）

● 本機の上に重い物をのせたり、本機の上に乗らない

火災・感電の原因となります。

● 水場や風呂場などの水に濡れるところに置かない

● 不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

● 台車などの上で使用する場合

車輪をロックしてください。

● 雷が鳴ったら、電源プラグに触れない

● リモコンについて

リモコンを分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

リモコンに水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

● 無線アダプターの電波について（一部の機種に付属または内蔵）

航空機内や病院など、使用を禁止された場所では絶対に使用しないでください。電子機器や医用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、使用しないでください。電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

- ペースメーカー、その他医用電気機器を使用されている方は、医師または医用電気機器メーカーにご相談ください。

⚠注意

●電源コードについて

電源コードは使い方を誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない(必ず電源プラグを持って抜く)
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 使用後は、本機の電源プラグをコンセントから抜く
- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- 電源プラグは年1回以上コンセントから抜いて、電源プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように乾いた布や掃除機で清掃する
- 電源コード(特に電源プラグ部分)の清掃には、洗剤を使用しない
- 本体を移動させる場合は、電源を切り、電源コードを取り外す

●大切なデータは控えをとる

本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

●投映中にレンズの前に水槽などレンズ効果をもたらす物を置かない

火災の原因となることがあります。

●投映レンズには手を触れない

●無線アダプターについて(一部の機種に付属または内蔵)

本体から取り外した状態の無線アダプターを乳幼児の手の届く場所には置かないでください。誤って飲み込んで窒息したり、傷害を負うなどの原因となる場合があります。

電池について

⚠警告

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となります。次のことは必ずお守りください。

- 分解しない、ショートさせない
- 加熱しない、火の中に投入しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池を混ぜて使用しない
- 充電しない

- 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れる

⚠注意

電池は使い方を誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 本機で指定されている電池以外は使用しない

●使い切った電池は直ちに本機から抜く

- 長時間使用しないときは、リモコンから電池を取り外しておく

●電池を廃棄する場合は各自治体の回収方法に従って廃棄する

レンズカバーについて

⚠ 警告

本機のレンズカバーは、磁石を使用して装着しております。ペースメーカー、その他医療用電気機器を使用されている方は、機器から離して使用してください。万一異常を感じたら、ただちにレンズカバーを体より離し、医師に相談してください。

⚠ 注意

レンズカバーをフロッピーディスク、磁気カード、磁気テープ、プリペイドカード、切符などの磁気記録媒体に近づけないでください。レンズカバーを磁気記録媒体に近づけると、記録を破壊することがあります。

その他

⚠ 注意

内部にホコリが付着したまま長時間清掃をしないと、火災や故障の原因となることがあります。1年に一度は、内部の清掃（有償）を、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

使用上のご注意

ランプについて

- 本機の光源用ランプには、レーザーおよびLEDを使用しております。
- 光源用ランプの寿命（目安）は、約20,000時間です（ランプの個体差や使用条件、設定メニューの各設定状態などによって差があります）。
- 光源用ランプの保証期間は、保証書記載の製品保証期間または6,000時間のどちらか早い方です。
- 光源用ランプが点灯しなくなった場合や、光源用ランプの明るさが著しく暗くなった場合はランプの寿命です。お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に交換をご依頼ください。

無線使用に関するご注意（無線アダプター付属の機種をご使用の場合）

- **2.4GHz帯使用の無線機器について**
  - 本機は2.4GHz帯を使用し、変調方式はDS-SSおよびOFDMです。
    また、想定される与干渉距離は約40mです。

  - 本機の使用周波数帯（2.4GHz）では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局が運用されています。
    1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
    2. 万一、本機と移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局との間で、電波干渉が発生した場合には、速やかに通信チャンネルを変更するか、使用する場所を変えるか、本機の使用を停止してください。
    3. 不明な点がある場合やお困りの場合は、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。

- **本機は、電波法に基づいて技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。また、本機は日本国内でのみ使用できます。**

- **本機は、技術基準適合証明を受けていますので以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。**
  1. 分解および改造すること
  2. 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

- **Bluetoothや無線LANは、本機と同じ周波数帯（2.4GHz）を使用しています。これらを利用した製品と本機との間で、互いに電波障害を与えることがあります。**

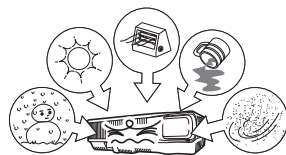
- **下記のような環境では、電波状態が悪くなったり、電波が届かなくなったりします。**
  - 電子レンジ等の磁場、静電気、不要輻射電波の発生する機器の近く
  - 鉄筋コンクリート（マンションなど）の建物内
  - 鉄骨構造の建物内
  - 大型金属製家具の近く
  - 各無線機器の間に人が入ったり、間を人が横切るとき
  - 各無線機器が別々の部屋にある場合（障害物がある場合）

- **電波の性質と強さ**
  - 電波には、障害物があると反射したり屈折したりする性質があります。そのため、各無線機器に届く電波には、直接届く直接波と反射して届く反射波があります。
  - 建物内には、多くの家具、品物、壁がありますので、さまざまな反射波が発生します。この反射波によって、電波状態の良い場所と悪い場所ができます。このため、各無線機器を少し動かすと、状況が良くなることがあります。

- **電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受することも考えられます。機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないでください。**

その他のご注意

本機は精密な電子部品で構成されています。データが正常に保持できなくなったり、故障の原因になりますので、以下のことに注意してください。

- **次のような場所での使用や保管は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 静電気が発生しやすいところ
  - 極端に高温または低温のところ
  - 湿度の高いところ
  - 急激な温度変化が起こるところ
  - ほこりの多いところ
  - ぐらついたところや傾いた不安定な場所
  - 水に濡れるような場所

- **次のような使用方法は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。**
  - 低温や高温の環境では使用しないでください（5℃～35℃の環境でご使用ください）。
  - 本機の上に重い物をのせたり、本機の上にのらないでください。
  - 本機の中に物を落としたり、入れたりしないでください。
  - 本機の上に花瓶など水が入った物を置かないでください。

- **消耗した電池をリモコンに取り付けたまま長期間放置しないでください。**

電池が液もれすることがあります。液もれは故障・破損の原因になることがあります。

- **お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。**

特に汚れがひどい場合は、中性洗剤に浸した布を固くしぼっておふきください。なお、シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。文字が消えたり、ケースにシミをつけてしまう恐れがあります。

- **画面のドット欠けについて**

本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、画面の一部に非点灯などのドットが存在することがあります。これは故障ではありません。

- **投映中は本体に衝撃を加えないでください。**

投映中に本体に衝撃を加えると、投映が一時的に途切れた後に、画面の変色やエラーが発生することがあります。

画面が変色した場合は、本体またはリモコンの[INPUT]キーで投映していた入力ソースを選択し直すと、元の色に戻ります。元の色に戻らない場合は、「電源を切るには」（J-19ページ）に従って電源を切ってから、再度電源を入れてください。

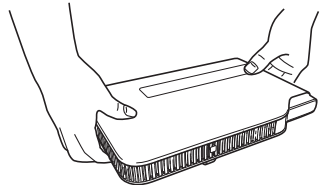
エラーが発生した場合の対処については、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）の「エラー発生時の各種表示について」を参照してください。

- **台形補正時画質について**

台形補正操作を行うと画像が圧縮されるため、画像が乱れたり画質が低下する場合があります。このような場合は、可能な限り「本機を設置する」（J-14ページ）のイラストの設置状態に近づけてください。イラストの設置状態に近いほど台形補正は少なくて済み、イラストどおりに設置すれば台形補正は不要となります。画質を重視する場合は、台形補正機能が不要な位置に設置の上、補正を解除してご使用ください。

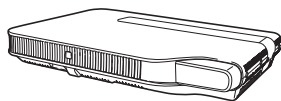
- 本機は、24時間連続使用などの長期連続運転での使用や本書で規定しております「設置場所に関するご注意」（J-15ページ）の設置条件を無視して使用された場合、保証期間であっても有償保証とさせていただきます。

本体の移動時の注意

動作中および電源を切った直後は、排気口およびその周辺が高温になっております。本機を移動する際は、図のように必ずプロジェクターの両側面を持つようご注意ください。

キャリングバッグへの収納について

本体が冷えてからキャリングバッグに収納してください。

内容物のご確認

パッケージには以下の内容物が含まれていますので、ご確認ください。

データプロジェクター

リモコン（YT-100）

試用乾電池（単四×2本）

電源コード

専用AVケーブル

ミニD-Subケーブル

- キャリングバッグ（本体用とコード類用）
- CD-ROM
- 取扱説明書（基本編）（本書）
- 「ご使用前にお読みください」
- 保証書

USB端子付きのモデルの場合
- 注意シール（2.4GHz帯使用の無線機器について）
- 無線アダプター（付属または本体内蔵）

CD-ROMの使い方

付属のCD-ROMの使い方は、ご使用の機種によって異なります。

XJ-A130/XJ-A140/XJ-A240に付属のCD-ROMの使い方

付属のCD-ROMには、より詳しい操作方法を解説した「取扱説明書（活用編）」がPDFファイル形式で収録されています。取扱説明書（PDF）を読むには、Adobe® Reader®が必要です。

取扱説明書（PDF）を読むには

1. 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。

2. CD-ROMの中の「User' s Guide」フォルダーを開く。

3. 「UsersGuide_Japanese.pdf」ファイルをダブルクリックする。
- Adobe Readerが起動し、取扱説明書が表示されます。
- ファイル名の後ろの「.pdf」は、パソコンの設定により表示されない場合があります。

XJ-A135/XJ-A145/XJ-A245に付属のCD-ROMの使い方

付属のCD-ROMには各種のソフトウェアや、PDFファイル形式の取扱説明書が収録されています。取扱説明書（PDF）を読むには、Adobe® Reader®が必要です。

取扱説明書（PDF）を読むには

1. 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
- 自動的にCD-ROMのメニュー画面が表示されます。

2. メニュー画面の「取扱説明書」右側の[フォルダを開く]ボタンをクリックする。
- 「User' s Guide」フォルダーが開きます。

3. 「User' s Guide」フォルダー内の「Japanese」フォルダーを開く。

4. 読みたい取扱説明書のファイルをダブルクリックする。
- 各取扱説明書の内容は、下表のとおりです。

取説名	内容	ファイル名
取扱説明書（活用編）	プロジェクター本体に関する、より詳しい操作方法を説明しています。	UsersGuide_Japanese.pdf
USB拡張機能ガイド	プロジェクター背面のUSB端子にUSBメモリー、マルチプロジェクションカメラ（YC-400/430/470）、グラフ関数電卓を接続して使うときの操作を説明しています。	USB_Guide_Japanese.pdf
ワイヤレス機能ガイド	プロジェクターとパソコンを無線LANで接続し、パソコンのディスプレイ内容をプロジェクターから投映する操作を説明しています。	WirelessGuide_Japanese.pdf

- ファイルをダブルクリックするとAdobe Readerが起動し、取扱説明書が表示されます。
- ファイル名の後ろの「.pdf」は、パソコンの設定により表示されない場合があります。

ソフトウェアのインストールについて

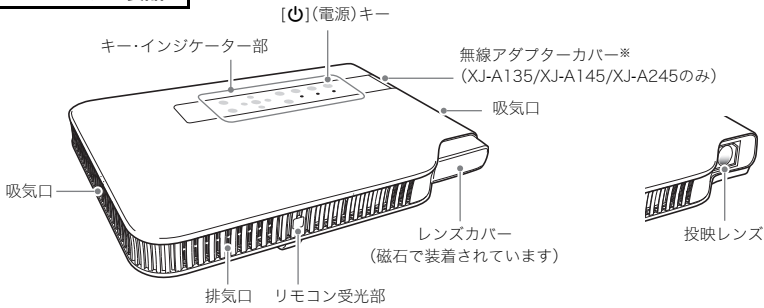
付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットすると表示されるメニュー画面から、次のソフトウェアをインストールすることができます。各ソフトウェアのインストール方法については、下表の「参照先」に記載されている取扱説明書をご覧ください。

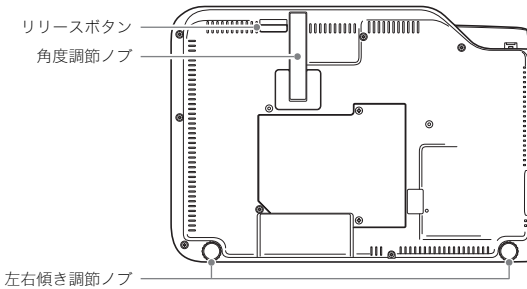
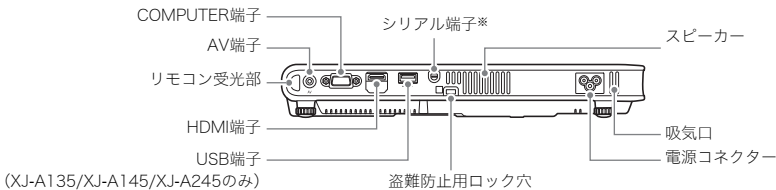
ソフトウェア名	概要	参照先
Wireless Connection 3	プロジェクターとパソコンをワイヤレスで接続するためのソフトウェアです。	ワイヤレス機能ガイド（WirelessGuide_Japanese.pdf）
EZ-Converter FA	PowerPointファイルをECAファイルに変換するためのソフトウェアです。	USB拡張機能ガイド（USB_Guide_Japanese.pdf）
ArcSoft MediaConverter 3 for CASIO Projector	動画ファイルを変換するためのソフトウェアです。	
マルチプロジェクションカメラ更新ソフトウェア	マルチプロジェクションカメラYC-400/YC-470のファームウェアを更新するためのソフトウェアです。	

各部の名称

【前面／上面／側面】

クラス1レーザー製品

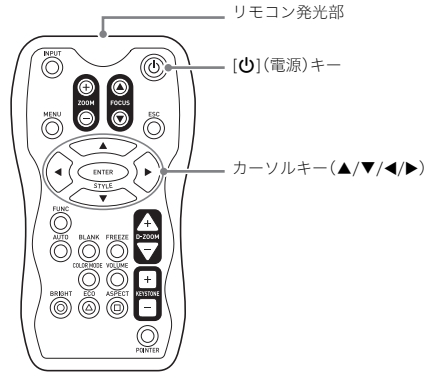
[⏻]（電源）キー
キー･インジケーター部
無線アダプターカバー※
（XJ-A135/XJ-A145/XJ-A245のみ）
吸気口
吸気口
レンズカバー
（磁石で装着されています）
投映レンズ
排気口
リモコン受光部

※無線アダプターカバー内には、付属品の無線アダプターYW-3を接続するための専用端子があります。無線アダプターの着脱のしかたについては、付属のCD-ROMに収録されている「ワイヤレス機能ガイド」をご覧ください。

【底面】

【背面】

※パソコンから本機を制御するための端子で、通常は使用しません。接続には、別売品の専用ケーブル（YK-5）が必要です。

メモ

- 盗難防止用ロック穴は盗難防止用のチェーン等を取り付けるためのものです。ケンジントンロックのホームページ（http://www.kensington.com/）もご覧ください。

リモコンについて - 準備

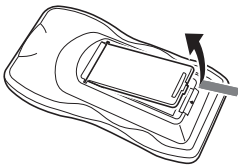
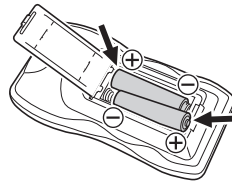
リモコンには、乾電池が装着されていません。ご使用の前に付属の乾電池2本を装着してください。

リモコンに乾電池を入れる

重要!

- **必ずアルカリ電池をご使用ください。**

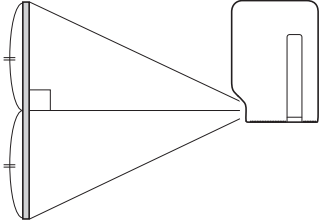
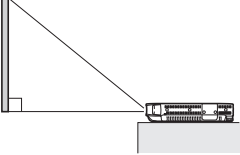
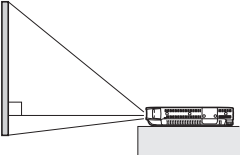
⚠注意	電池は間違ったタイプに交換すると、破裂の危険があります。 使用済みの電池は、取扱説明書に従って廃棄してください。

⚠注意	乾電池は使い方を誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、破裂による火災、けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。 ● 極性(+/−の向き)に注意して正しく入れてください。 ● 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。 ● 種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。 ● 本機で指定されている乾電池以外は絶対に使用しないでください。

1. リモコン背面の電池ブタを開く。

2. 新しい乾電池を+/−の向きに注意しながら取り付ける。

3. 電池ブタを閉じる。

リモコンの電池を交換する

上記同様に電池ブタを開き、古い電池と新しい電池を交換してください。

重要!

- **電池が消耗しますので、保管時はキーが押されないようにご注意ください。**

使用前の準備

本機を設置する

周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに設置してください。

- 投映するスクリーンに対して次のように設置すると、最適な映像を得ることができます。

重要！

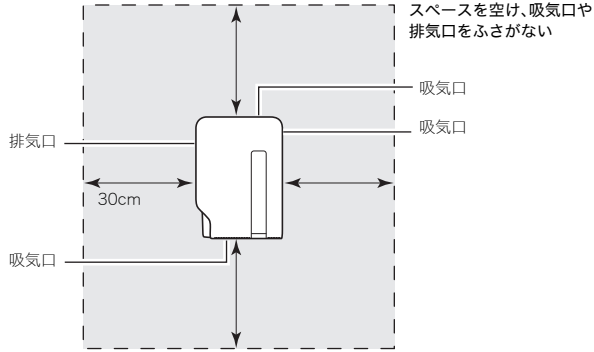
- **本機を傾けて設置する場合、水平方向より上下±30度の範囲で設置可能です。上下にこの範囲以上に傾けたり、左右に傾けて設置しないでください。ランプの寿命を縮めたり、故障の原因となります。**
- **本機の自動台形補正の補正可能範囲は0〜+30度です。水平方向より下へ投映する場合は、手動で台形補正を行ってください（J-21ページ）。**
- **空気が薄い高地（海抜1,500m〜3,000m）でご使用になるときは、設定メニューの「機器設定2→高地モード」をオンにしてください。詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）をご覧ください。**

メモ

- 本機は天井から吊して設置することが可能です。付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）の「本機を天井から吊して設置する」をお読みになった上で、販売店にお問い合わせください。
- 本機はリアプロジェクション（スクリーン背面からの投映）が可能です。詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）をご覧ください。

設置場所に関するご注意

本機の性能は, 設置する環境によって影響を受けることがあります。設置場所が次の条件に合っていることをご確認ください。

- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所でお使いください。
- 下図に示す範囲には物を置かないでください。特に吸気口や排気口の30cm以内に障害物や物を置かないでください。

- 投映中は排気口部が高温になりますので、触れないでください。また、排気口部の近くは高温になりますので、プラスチック等の高温に弱い物をそばに置いたり、下に敷いたりしないでください。変形や変色の原因となります。
- 不安定な場所や振動しやすいところは避けてください。また、絨毯や布団、タオルなど柔らかい物の上に置かないでください。
- 直射日光の当たる場所での使用は避けてください。
- ほこりの多い場所や多湿な場所での使用は避けてください。
- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器や暖房機器の近くでの使用は避けてください。
- 本機を使用すると、ファンの吸気口にほこりがたまることがあります。ほこりがたまると故障の原因になりますので、本機をお使いになる前に毎回ほこりがたまっていないことを確認してください。ほこりがたまっている場合は、必ずファンの吸気口を掃除し、ほこりを取り除いてからお使いください。
- 本機を設置する際には、吸気口をふさがないように設置してください。吸気口をふさぐと、ランプの寿命を縮める原因になります。
- 空調の風向きにより、レンズ付近に本機の排気熱が当たると投映画面に揺らぎが発生することがあります。その場合、空調の風向きや本機の設置位置を変更してご使用ください。

設置角度の調整

本機の設置角度（投映レンズの仰角＝投映角度）を、0度（水平）～20度の範囲内で調整することができます。また、必要に応じて左右の傾きを微調整することもできます。

本機の設置角度を調整するには

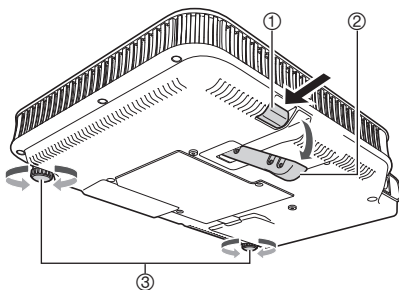
1. 本体の手前を持ち上げた状態で、前面のリリースボタン①を押す。

- 角度調節ノブ②が引き出されます。
- 角度調節ノブは、リリースボタンを押してから引き出してください。リリースボタンを押さずに引き出すと、故障の原因となります。

2. 角度調節ノブの高さを大まかに決めて、リリースボタンを離す。

- リリースボタンを離した位置で、角度調節ノブが固定されます。

3. 左右傾き調節ノブ③を回して、本機の仰角と左右の傾きを微調整する。

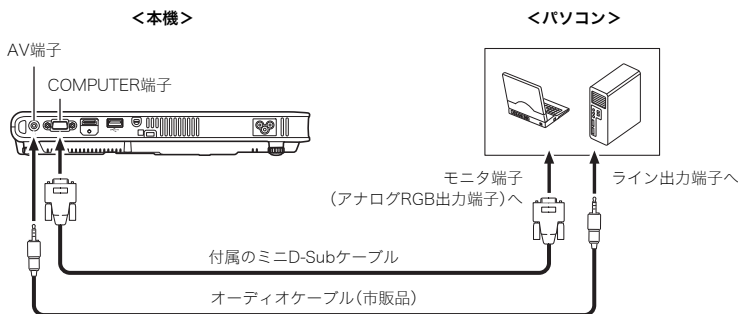
- 左右傾き調節ノブは微調整用のため、回し過ぎないでください。ノブが外れたり、締め過ぎにより回せなくなるおそれがあります。

重要!

- **角度調節ノブをしまう時は、リリースボタンを押してからノブを押し込んでください。リリースボタンを押さずに無理に押し込まないでください。**

パソコンとの接続

パソコンからのアナログRGB出力を、本機で投映することができます。

重要!

- **本機とパソコンの電源を切った状態で接続してください。**
- **パソコンからの音声出力を大きくしすぎないようにしてください。**

一般的なビデオ機器との接続

ビデオデッキやテレビ、ビデオカメラなど各種ビデオ機器からの映像を、本機で投映することができます。

重要!

- **本機とビデオ機器の電源を切った状態で接続してください。**

- 付属の専用AVケーブルを使って、ピンジャック(RCA)タイプのVIDEO出力端子と接続することができます。ビデオカメラなど、特殊な形状のビデオ出力端子を備えたビデオ機器と接続する場合は、ビデオ機器に付属の専用ケーブルなどを利用して接続してください。詳しくは、接続するビデオ機器の取扱説明書を参照してください。

メモ

次の接続方法については、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(活用編)をご覧ください。
- ビデオ機器のコンポーネントビデオ出力と本機の接続
- ビデオ機器やパソコンのHDMI出力と本機の接続

電源を入れる

以下の操作を行う前に、あらかじめ本機の設置およびパソコンやビデオ機器との接続を行ってください。

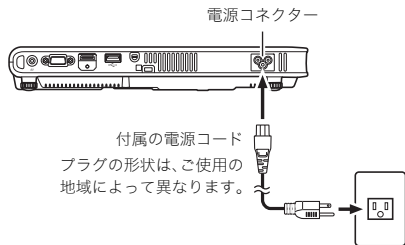
電源コードについてのご注意

- 必ず付属の電源コードをご使用ください。
- 付属の電源コードは、本機以外の電気機器では使用できません。
- 電源は、指定された電源電圧(日本国内では交流100V)のコンセントを使用してください。
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しないでください。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意してください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 電源コードの上に物を置いたり、踏みつけたりしないでください。
- 電源コードを引っ張らないでください。抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りに物を置かないでください。
- 電源についてご不明な点は、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。

⚠注意	● 電源プラグは、必ずアース付交流100V(日本国内の場合)のコンセントに接続してください。 ● アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。 ● アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

電源を入れるには

1. 付属の電源コードを使って、本機をコンセントに接続する。

- コンセントに接続した時点では、本機上面の3つのインジケーターすべてがオレンジ色に点灯します。しばらくするとPOWER/STANDBYインジケーターだけがオレンジ色に点灯した状態となり、その他のインジケーターは消灯します（スタンバイ状態）。
- 本機がスタンバイ状態になるまでは、[⏻]（電源）キーを押しても本機の電源は入りません。

2. 本機と接続したパソコンやビデオ機器の電源を入れる。

3. 本機にレンズカバーが装着されている場合は、取り外す。

4. [⏻]（電源）キーを押す。

- POWER/STANDBYインジケーターが緑色に点滅します。
- 数秒後、POWER/STANDBYインジケーターが緑色の点灯に変わり、接続機器からの映像が投映されます。
- 本機の電源を初めて入れた場合は、「言語初期設定」画面が投映されます。下記の「初回電源投入時の言語初期設定」を参照し、設定してください。

メモ

- 本機の「エコモード」が「オン」に設定されている場合は、本機の電源が入るとLAMPインジケーターが緑色に点灯します。

初回電源投入時の言語初期設定

お買い上げ後初めて本機の電源を入れると、投映画面の中央に「言語初期設定」画面が表示されます。設定メニューなどに表示する言語を選択してください。

1. カーソルキー[▲][▼]を使って、設定したい言語を選択する。

2. [ENTER]キーを押して選択する。

電源を切る

ご注意

- **電源を切った後しばらくは、本機は熱を帯びています。移動などのために本機に触れる場合は、取り扱いにご注意ください。「本体の移動時の注意」(J-9ページ)もご覧ください。**
- **本機をしまう場合は、冷えてから行ってください。**

電源を切るには

1. [⏻](電源)キーを押す。
   - 「電源をオフしますか？」という確認メッセージが投映画面の中央に表示されます。
   - 電源を切らない場合は、約10秒間放置してください。確認メッセージが消え、投映が継続されます。[ESC]キーを押した場合も、確認メッセージは消えます。
2. メッセージの表示中に[⏻] (電源)キーを押して電源を切る。
   - 本機の投映ランプが消灯し、投映映像が消えます。
3. POWER/STANDBYインジケーターがオレンジ色の点滅から点灯に変わったのを確認し、電源プラグをコンセントから抜く。
   - POWER/STANDBYインジケーターが消灯します。
4. パソコンやビデオ機器の電源を切り、本機と接続したケーブルを抜く。
5. レンズカバーを取り付ける。

メモ

- 本機の電源を切る際、[⏻](電源)キーを押さずに、電源コードをコンセントから抜いても構いません(ダイレクトパワーオフ)。この方法で電源を切った場合、ズームメモリー(付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(活用編)を参照)は無効となります。
- 所定の時間、キー操作や入力信号がない状態が続くと、本機の電源は自動的に切れます(オートパワーオフ)。オートパワーオフが働くまでの時間は、設定メニューを使って指定することができます(初期設定は10分)。

投映の基本操作

入力ソースを選択する

本機の電源を入れた直後は、前回電源をオフにしたときに選択されていた入力ソースが自動的に選択されます。他の入力ソースに切り替えるには、次の操作を行います。

1. [INPUT]キーを押す。
   - 入力ソースの選択画面が表示されます。

2. [▲]キーまたは[▼]キーを使って希望する入力ソース名を選び、[ENTER]キーを押す。
   - 選択された入力ソースの名前が数秒間、投映画面の右上に表示されます。
   - 入力信号が検出できなかった場合、「入力信号がありません」というメッセージが表示されます。

重要!

- **解像度について**
  プロジェクターのビデオ解像度は、機種によってXGA(1024×768ピクセル)またはWXGA(1280×800ピクセル)に固定されています。パソコンからの入力信号が、プロジェクターのビデオ解像度と一致していない場合、画像が粗くなったり、文字などが見えにくくなったり、格子状の干渉縞(モアレ)が現れたりすることがあります。このような場合は、次の操作をお試しください。
  - **パソコンの出力解像度をご使用のプロジェクターのビデオ解像度に合わせて設定し、投映する。**
    ご使用のプロジェクターのビデオ解像度は、「製品仕様」(J-27ページ)の「DLPチップ」の項目を参照してください。パソコンの設定方法については、パソコンの取扱説明書等をご覧ください。
  - **ビデオ解像度がWXGAの機種をご使用の場合は、アスペクト比の設定を「リアル」に切り替える。**
    「リアル」の設定では、入力信号が実サイズのまま(入力ソースの1ドットと本機の出力画素の1ドットが一致するように)投映されます。
    アスペクト比の切り替えの操作について詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(活用編)の「投映画面の縦横比(アスペクト比)を切り替える」を参照してください。

投映映像を調節する

投映サイズを調節するには

投映サイズを大きくするには[ZOOM +]キーを、小さくするには[ZOOM −]キーを押し続けます。希望するサイズになったら、キーを離します。
本体のキーで投映サイズを調節するには、[ZOOM]キーを押して(一度離してから)、[>]/[<](または[∧]/[∨])キーを押します。

焦点を合わせるには

[FOCUS ▲]キーまたは[FOCUS ▼]キーを押し続けます。焦点が合ったら、キーを離します。
本体のキーで焦点を合わせるには、[FOCUS]キーを押して(一度離してから)、[∧]/[∨](または[>]/[<])キーを押します。

RGB入力の映像の自動調整について

本機の電源を入れたり、入力ソースを切り替えたりして、RGB信号の投映が開始されると、投映映像の垂直／水平位置、周波数、位相が自動調整されます。また、RGB信号の投映中は、[AUTO]キーを押して自動調整を実行することができます。

メモ

- 手動で調整した値を保持したい場合は、設定メニューの「機器設定1→自動調整」をオフにしてください。
- 自動調整中は画像が乱れることがあります。
- 自動調整を行っても、位置がずれていたり映像が乱れる場合は、設定メニューを使って手動で調整を行ってください。

台形歪みを補正する（KEYSTONE）

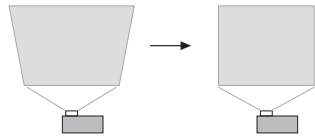
本機と投映するスクリーンの角度によって、投映映像が歪み、長方形にならない場合があります。本機はこの「台形歪み」を、自動または手動で補正する機能を備えています。

重要!

- **台形補正が行われた投映画面は、スクリーンに対する投映角度によって小さくなったり、画質が乱れることがあります。投映画面が見づらい場合は、スクリーンに対する本機の設置位置を、可能な限り「本機を設置する」（J-14ページ）で図示されている状態に近くなるようにしてください。**
- **横方向の台形歪みは補正できません。本機の投映レンズの中心とスクリーンの左右方向の中央位置が一致するように設置することをお勧めします（J-14ページ）。**

自動台形補正について

設定メニューの「機器設定１→自動台形補正」が「オン」に設定されていると、本機の縦方向の傾きを検知して、投映映像が長方形になるように自動的に補正が行われます。自動台形補正が行われると、投映画面の中央に「自動台形補正が行われました」と表示されます。

- 本機の自動台形補正の補正可能範囲は0～+30度です。水平方向より下へ投映する場合は、手動で台形補正を行ってください。

メモ

- 自動台形補正は本機の傾きを検出して行うため、投映するスクリーンや壁面などが地面に垂直な場合に限り有効です。傾いたスクリーンなどに投映する場合は、手動で台形補正を行ってください。

手動で台形補正を行うには

1. [KEYSTONE ＋]キーまたは[KEYSTONE －]キーを押す。
- 投映画面上に「台形補正」画面が表示されます。

2. [KEYSTONE ＋]キーまたは[KEYSTONE －]キーを押して補正を行う。
- 補正可能範囲は±30度です。

3. 設定画面を消すには、[ESC]キーを押す。

設定メニューについて

[MENU]キーを押すと投映される「設定メニュー」を使って、本機のさまざまな基本設定を行うことができます。カーソルキー([▲][▼][◀][▶])と[ENTER]キーを使って、項目の選択や設定を行います。

- 各設定項目の詳細や、設定の操作については、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書(活用編)を参照してください。
- メインメニュー項目の「USB」については「USB拡張機能ガイド」を、「ワイヤレス」については「ワイヤレス機能ガイド」をご覧ください(いずれも付属のCD-ROMに収録)。

設定メニュー一覧

メインメニュー	サブメニュー
映像調整1	明るさ
	コントラスト
	シャープネス
	色の濃さ
	色合い
	カラーモード
	カラーバランス
	エコオフモード
	映像調整1の初期化
映像調整2	垂直位置
	水平位置
	周波数
	位相
	映像調整2の初期化
音量調整	音量
	音量調整の初期化
画面設定	台形補正
	アスペクト比
	投映方法
	天吊投映
	スタート画面
	無信号時画面
	ブランク画面
	画面設定の初期化
入力設定	COMPUTER入力
	ビデオ信号
	信号名表示
	入力設定の初期化

メインメニュー	サブメニュー
機器設定1	自動台形補正
	自動調整
	エコモード
	オートパワーオフ
	パワーオンパスワード
	ダイレクトパワーオン
	言語
	機器設定1の初期化
機器設定2	ズームメモリー
	ポインター
	プラグアンドプレイ (USB端子付モデルのみ)
	USB音声出力 (USB端子付モデルのみ)
	HDMI音声出力
	高地モード
	機器設定2の初期化
USB (USB端子付モデルのみ)	
ワイヤレス (USB端子付モデルのみ)	
情報	入力信号
	信号名
	解像度
	水平周波数
	垂直周波数
	走査方式
	ランプ使用時間
全初期化	ユニット使用時間
	全初期化

メンテナンスについて

クリーニングについて

本機外部／レンズ／吸気口／排気口は、定期的にクリーニングしてご使用ください。

吸気口／排気口のクリーニング

吸気口にはゴミやほこりがたまりやすいので、電気掃除機を使い、時々ていねいに吸い取ってください。

重要!

- **吸気口にほこりがたまったままで本機をご使用になると、本機内部の温度が過度に上昇し、故障の原因となります。**
- **ご使用の環境によっては、排気口にもほこりやゴミがたまることがあります。このような場合は、吸気口と同様にクリーニングしてください。**

ランプについて

光源用ランプが点灯しなくなった場合は、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に交換をご依頼ください。

故障かな？と思ったら

インジケーター表示について

本機の状態を、上面の各インジケーターの色や点灯／点滅状態によって判別することができます。正常時のインジケーター表示は下表のとおりです。

インジケーター表示	本機の状態
POWER ：オレンジ点灯 TEMP ：オレンジ点灯 LAMP ：オレンジ点灯	本機の電源コードをコンセントに接続した直後です。スタンバイ状態（下記参照）になるまでは、本機の電源を入れることはできません。
POWER ：オレンジ点灯	本機の電源コードがコンセントに接続されており、スタンバイ（待機）状態です。
POWER ：緑点滅	本機の電源を入れた直後のウォームアップ中です。
POWER ：緑点灯	本機の電源が入り、使用可能な状態です。
POWER ：オレンジ点滅	本機の電源を切った直後の内部処理中です。
LAMP ：緑点灯	本機の「エコモード」が「オン」に設定されています。

- 上記以外のインジケーター表示（赤点灯など）や投映画面に警告メッセージが表示された場合は、本機に何らかのエラーが発生しています。エラー発生時のインジケーター表示と警告メッセージについて詳しくは、付属のCD-ROMに収録されている取扱説明書（活用編）をご覧ください。

本機のトラブルと対処について

本機の使用中に何らかのトラブルが発生した場合は、故障とお思いになる前に、以下をご確認ください。

現象	原因と対処	参照先
[⏻]（電源）キーを押しても電源が入らない	POWER/STANDBYインジケーターが点灯していない場合は、電源コードが正しく接続されていません。 **➔ 電源コードを本機とコンセントにしっかり接続してください。（「電源を入れる」参照）**	J-17ページ
	TEMPまたはLAMPインジケーターが点滅（点灯）し続けたまま消灯しない場合は、何らかのエラーが発生しています。 **➔「エラー発生時の各種表示について」を参照してください。**	取扱説明書（活用編）
接続している機器からの映像が投映されない	本機と接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っていなかったり、ビデオ信号が出ていないことが考えられます。 **➔ 接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っており、正常に動作していることをご確認ください。**	ー
	正しい入力ソースが選択されていないことが考えられます。 **➔ 本機に接続している機器に合わせて入力ソースを正しく選択してください。（「入力ソースを選択する」参照）**	J-20ページ
接続しているビデオ機器からの映像が正しく投映されない	ビデオ機器のコンポーネント出力端子と本機のCOMPUTER端子を接続した場合、ビデオ機器によっては、映像が正しく投映されない場合があります。 **➔ 本機のAV端子をご使用ください。（「一般的なビデオ機器との接続」参照）**	J-17ページ

現象	原因と対処	参照先
RGB/コンポーネント選択時に、投映された映像の色や表示が極端にずれている	設定メニューの「入力設定→COMPUTER端子」の設定として、誤って「コンポーネント」または「RGB」が選択されていることが考えられます。本機のCOMPUTER端子とパソコンのRGB出力端子を接続しているときに「コンポーネント」が選択されているか、本機のCOMPUTER端子とビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子を接続しているときに「RGB」が選択されている場合は、映像が正しく表示されません。 **➔ 設定メニューの「入力設定→COMPUTER端子」を「自動」に切り替えてください。**	取扱説明書（活用編）
メッセージやメニューが日本語で表示されない（言語が変わってしまった）	次の操作で、言語を「日本語」に設定してください。 1. [MENU]キーを押して設定メニューを表示する。 2. [▼]を5回押し、[ENTER]キーを押す。 3. 言語選択メニューを表示する。 ● 入力信号がRGBの場合は、[▼]を6回押してから[ENTER]キーを押す。 ● 入力信号がRGB以外の場合は、[▼]を5回押してから[ENTER]キーを押す。 4. [▼]/[▲]を使って「日本語」を反転させ、[ENTER]キーを押す。 5. [MENU]キーを押して設定メニューを消す。	取扱説明書（活用編）
本機と接続した機器からの音が本機から出ない	本機の音量設定が小さすぎるか、消音（ミュート）状態になっていることが考えられます。 **➔ リモコンの[VOLUME]キーを押し、[▶]/[◀]を使って音量を調節してください。**	取扱説明書（活用編）
	本機と接続した機器の音量が小さすぎるか、音が出ていないことが考えられます。 **➔ 接続した機器の音量を調節してください。**	機器に付属の説明書
	本機のAV端子に、機器の音声出力が正しく接続されていないことが考えられます。 **➔ 機器に応じた項目を参照し、接続状態をご確認ください。** **「パソコンとの接続」** **「一般的なビデオ機器との接続」** **「コンポーネントビデオ出力との接続」**	J-16ページ J-17ページ 取扱説明書（活用編）
	ビデオ機器やパソコンのHDMI出力を本機のHDMI端子に接続しているときに、設定メニューの「機器設定2→HDMI音声出力」が「ライン」に設定されていることが考えられます。 **➔「HDMI音声出力」の設定を「スピーカー」に切り替えてください。**	取扱説明書（活用編）
投映される映像の色がおかしい	入力信号と本機の設定が合わないことが考えられます。次の操作をお試しください。 **➔ [BRIGHT]キーを押して、明るさを調節する。** **➔ [COLOR MODE]キーを押して、カラーモードを変更する。** **➔ 設定メニューの「映像調整1→カラーバランス」を使って映像のカラーバランスを調整する。**	取扱説明書（活用編）

故障かな？と思ったら

現象	原因と対処	参照先
投映画面上の文字がぼやける	焦点が合っていないことが考えられます。 **➔ リモコンの[FOCUS ▲]キーまたは[FOCUS ▼]キーを押して、焦点を合わせてください。**	J-20ページ
	焦点が合っているのに文字がぼやける場合は、周波数や位相の設定が入力信号と合わないことが考えられます（入力ソースがRGB信号の場合のみ）。 **➔ [AUTO]キーを押して自動調整を行ってください。それでも改善されない場合は、設定メニューを使って「映像調整2→周波数」と「映像調整2→位相」を手動で調整してください。**	J-21ページ 取扱説明書（活用編）
	入力ソースがビデオカメラや書画カメラの場合は、入力ソース機器に問題がないかご確認ください。	機器に付属の説明書
「パスワードを入力してください」というメッセージから先に進めない	設定メニューの「機器設定1→パワーオンパスワード」が「オン」に設定されています。 **➔ 正しいパスワードを入力し、[ENTER]キーを押してください。**	取扱説明書（活用編）
リモコンで操作できない	リモコンの電池が消耗していることが考えられます。 **➔ 電池を交換してください。（「リモコンの電池を交換する」参照）**	J-13ページ
	リモコンの操作可能範囲外で操作していることが考えられます。 **➔ 操作可能範囲内から操作してください。**	取扱説明書（活用編）
TEMPまたはLAMPインジケーターが点滅（点灯）している	**➔ 「エラー発生時の各種表示について」を参照してください。**	取扱説明書（活用編）
ランプが点灯しなくなった	光源用ランプの故障と考えられます。 **➔ お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に交換をご依頼ください。**	

重要！

- **以下の操作により正常に戻る場合がありますのでお試しください。**

  1. 電源コードを取り外し、10分以上放置する。
  2. 再度電源コードを接続し、電源を入れる。

- **この操作を行っても、動作が正常に戻らないときは、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。**

製品仕様

モデル名	XJ-A130	XJ-A135	XJ-A140	XJ-A145	XJ-A240	XJ-A245
明るさ (ANSIルーメン)※1	2000		2500			
投映方式	DLP方式					
DLPチップ	サイズ:0.55型 画素数:XGA (1024×768)				サイズ:0.65型 画素数:WXGA (1280×800)	
投映レンズ	光学電動2倍ズーム、電動フォーカス					
光源	レーザーおよびLED					
COMPUTER 端子	RGBミニD-Sub 15ピン×1(コンポーネント信号入力端子と共用)					
AV端子	ステレオ音声入出力/ビデオ入力用、3.5φミニジャック×1					
HDMI端子	HDMI TYPE A端子×1					
USB TYPE A 端子	なし	あり	なし	あり	なし	あり
シリアル端子	RS-232C制御用、専用端子×1					
無線LAN アダプター	※2	※3	※2	※3	※2	※3
使用環境	動作温度:5～35℃ 動作湿度:20～80%(ただし結露しないこと) 動作高度:海抜0～3,000m					
電源	AC100V、50/60Hz、3.3A					
外形寸法	幅約297mm×奥行き約210mm×厚さ約43mm					
質量	約2.3kg					
言語仕様	英語/フランス語/ドイツ語/イタリア語/スペイン語/スウェーデン語/ 中国語(簡体字)/中国語(繁体字)/韓国語/日本語					

※1　JIS X 6911:2003準拠
※2　非対応
※3　付属(YW-3専用端子に装着)

- USBインターフェイスは、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

EEE Yönetmeliğine Uygundur

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO.,LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
CASIO EUROPE GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany